



人工関節センター

Joint Reconstruction Center 2015年3月発行 News

地方独立行政法人



りんくう総合医療センター

RINKU GENERAL MEDICAL CENTER

〒598-8577 大阪府泉佐野市りんくう往来北2番地23号
TEL 072-469-3111 (代表) / FAX 072-469-7929

さらに低侵襲・早期回復・脱臼“ゼロ”を 目指した人工股関節手術とは…。

AMIS (Anterior Minimally Invasive Surgery: 前方低侵襲手術) 手技について

前方アプローチの歴史は古く、1949年にSmith-Petersenにより報告され、翌1950年にJudet兄弟が前方アプローチによるアクリル製人工関節手術を報告しています。その後、様々な改良が重ねられ現在に至っています。

前方アプローチは筋肉間・神経間を通り手術ができる唯一の方法と言われています。つまり筋肉・腱を切らず、股関節周囲の神経・血管損傷のリスクを低くできる手術手技です。また特殊な手術台や手術機器を使用することにより、安全で短時間で手術が可能な手術手技です。



AMIS® モバイル式
レッグ・ポジショナー;
股関節を屈曲・伸展・
外転・内転・回旋することができ、手術操作が容易になります。

より良い手術手技の導入を目指して…。

我々はこれまで人工股関節手術に後方アプローチを採用してきました。後方アプローチは股関節周囲の筋肉を一部切離するため、一般的に前方アプローチよりも侵襲が大きく・脱臼率も少し高いとされています。我々は脱臼率低減・人工関節の耐久性向上を目指し、後方アプローチに最新医療であるナビゲーションを併用することにより、より良い人工股関節手術を行ってきました。

このAMIS手技を人工股関節手術に導入するに際して、AMIS手術の本場であるヨーロッパ(スイス・フランス・イタリア)に手術手技習得を目的に、昨年4月、当センター長の藪野がスイスにてAMISに関する国際学会に参加し、Cadaver(屍体を用いた) trainingを行い、H26年4月から当センターでも導入しています。股関節の脱臼度や変形が強い症例・股関節の可動域が悪い症例には、症例ごとに有効なアプローチを変更しています。



このAMIS手技を人工股関節手術に導入するに際して、AMIS手術の本場であるヨーロッパ(スイス・フランス・イタリア)に手術手技習得を目的に、昨年4月、当センター長の藪野がスイスにてAMISに関する国際学会に参加し、Cadaver(屍体を用いた) trainingを行い、H26年4月から当センターでも導入しています。股関節の脱臼度や変形が強い症例・股関節の可動域が悪い症例には、症例ごとに有効なアプローチを変更しています。

◀ルガーノでのAMIS国際学会にて

平成27年2月8日～2月14日に澤田は、フランス(パリ)・イタリア(ミラノ)での多施設AMIS手術見学、AMIS手技のCadaverトレーニングに参加してきました。

平成27年1月7日にパリのシャルリー・エブド本社の襲撃テロ事件があったばかりで、情勢を心配しながらの参加でしたが、実際パリに着くと厳重な警備のためか、穏やかな街並みでした。

初日はパリにあるClinique Paris V病院のDr.Laude (AMIS手術のPioneer) の手術を2件見学しました。実際手術に参加させて頂き、日本との違い・詳細な手術手技などを丁寧に教えて頂きました。午後からTGV(高速鉄道)にてChateau d'arnyという森に囲まれた古城のような歴史あるホテルに移動し、AMIS手術の経験豊富なヨーロッパの先生方による解剖・手術方法・臨床成績・Pit&Fallなど細かく講義を受けました。2日目はツールにあるLaboratoire d'anatomieでのCadaverトレーニングでした。世界から整形外科医が30人程度参加(日本からは私と自治医大の先生の2人)されていました。私はDr.Laude(フランス)とProf.Philippe Laffargue(フランス)に直接指導を受けることができました。3日目はアンギャン湖の近くのエルモントにあるClinic Claude Bernard病院のDr.Meziere(フランス)の手術を3件見学しました。体格の大きい症例や変形の強い症例もあり、とても勉強になりました。4日目はミラノのベルガモにあるAz.Osped.PAPA Giovanni XXIII病院のDr.Rizz(イタリア)の手術を2件見学しました。第1助手として直接手術に参加させて頂き、今回のツアーの最終日としてとても充実感を味わいました。AMIS手術の経験豊富な先生方の手術を見学でき、また直接手術に参加できとても勉強になりました。この経験を踏まえて、これからの手術にフィードバックしていきたいと思えます。

ミラノの大聖堂ドゥオーモ▶



▲Cadaverトレーニングの様子



▲Dr.Rizzの手術見学の様子

AMIS手術手技で低侵襲・早期回復・脱臼軽減に加え、これまでのナビゲーション手術を併用することにより、さらなる脱臼軽減・人工関節耐久性向上を目指していきます。